

久斗山地区公民館だより



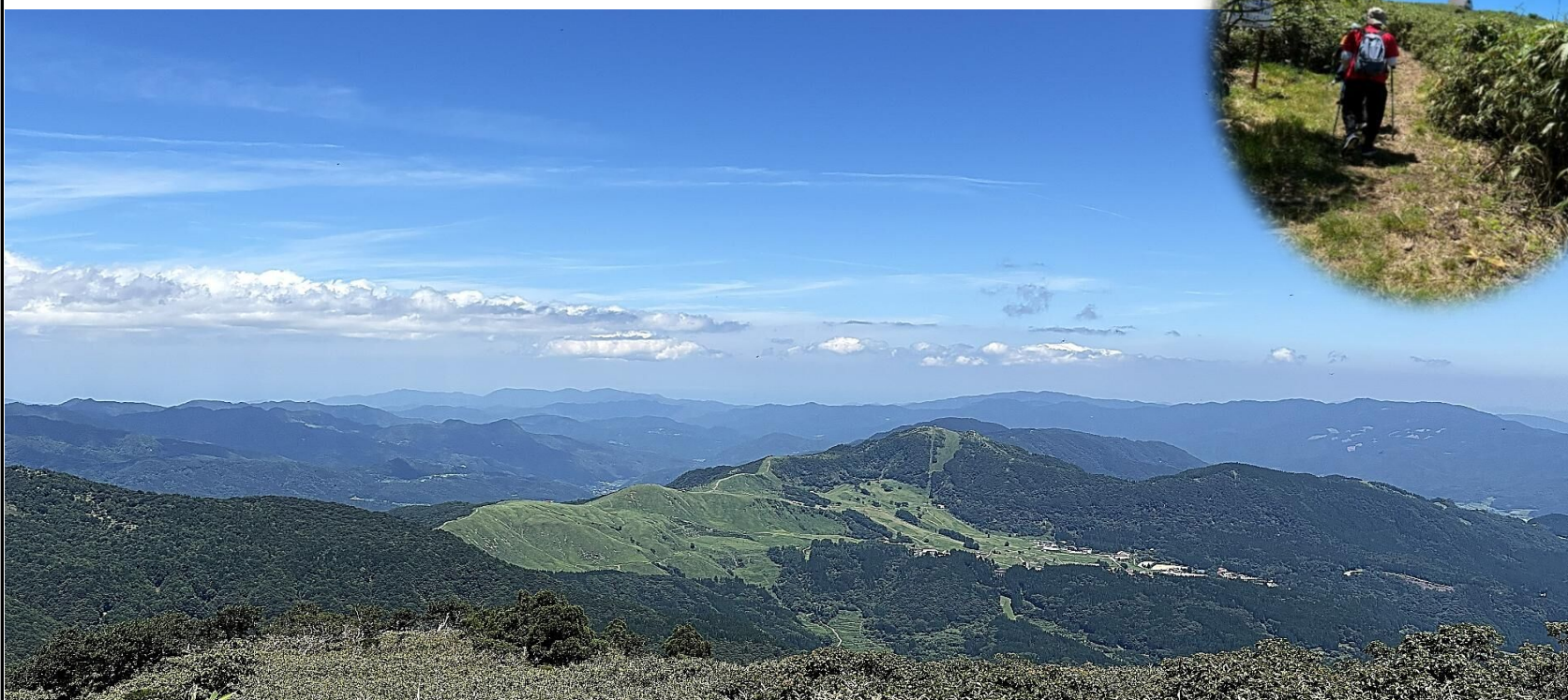
令和8年
8月号

7月23日発行

久斗山地区公民館

【ご挨拶】 今年の近畿地方の梅雨明けは7月8日、昨年は6月中には梅雨明けしたので少し遅いけど、それでも平年より11日早いそうです。次の日から一気に気温が上がり、最高気温は30℃以上となり、連日真夏日が続いています。この調子でいけば、昨年より猛暑の記録を更新しそうです。子どもの頃は夏が来るのが嬉しかったけど、近頃は夏が嫌いになってきました。特に暑すぎる夏は苦痛でしかありません。世界が熱狂中のサッカーW杯。日本は決勝トーナメントに出場したものの、第一戦で強国ブラジルと対戦して敗退し、ちょっと熱が冷めたみたいですが、米国の大統領はFIFAに意見して選手の出場停止を取り消したとか。世界の異常すぎるヒートアップはそろそろ冷めて欲しいものです。

【夏の氷ノ山(1,510m)】 標高100m上がると気温は0.6℃下がると言われてます。標高1,000mなら6℃の気温差があります。下界が30℃以上の真夏日でも、兵庫県の最高峰、氷ノ山(標高1,510m)は25℃以下で、木立の下は涼しい風が吹き抜け、とても気持ちがいいです。山頂の東側には西日本唯一の高地性湿地として兵庫県指定天然記念の「古生沼湿地」があり、ヤブガサやツマトリソウ、IV リンドウなどの希少植物が自生していますが、シカの食害で絶滅に瀕しており、養父市などの働きでかろうじて守られています。夏の氷ノ山、ぜひ、爽やかな高山の涼気を感じてみて下さい。



氷ノ山の山頂よりハチ高原方面を望む（令和8年7月10日）

【夏はやっぱり海！塩谷で生き物観察】

山から海へ！7月の久斗山自然教室は「海の生き物観察 in 諸寄」ということで12日(日)に諸寄の塩谷海水浴場を会場として開催、幼児から大人まで、それにユース・ラウドの留学生も加わり、33人の参加者がありました。タイミング良く梅雨も明けて、天気も海の状態も最高！開会を待ちきれずに早く来た参加者は海に入っていました。全員そろって、さっそく生き物採集。イサギなどの魚やヒトデ、ウミ、アサギなどを捕まえてきました。1時間ほどで休憩タイム。冷たいおやつもあって、水分補給してから、採集した生き物について解説しました。ヒトデを裏返して、どれが早く起き上がるか競争したり、カラフルな色のイサギがミ、死んでいると思っていたら実は脱皮殻だったりちょっとした驚きもあり、海の生き物の不思議に触れることができました。後半は海蝕洞窟に入って天然クーラーを体感したり、ボートに試乗したりと、時間いっぱいまで夏の海を満喫しました。夏は海もいいね～



カヌーの試乗が大人気



海の生き物について解説



穴から顔を出した
ホシギンボ

メバル

イソスジエビとイシダイ

アオウミウシ

【夏の道ばたで繁茂する厄介な草】

雑草が繁茂する夏場、県道ぞいなどを土建業者が委託を受けて草刈り作業をしています。暑い中、ご苦労様です。夜になるとシカが道に出て草を食べるので少なくなったと思いきや、近ごろ、変なのが群生しています。

イワヒメワラビ：シダ類でワラビに似ていますが、食用にはしません。もちろんシカも食べません。山際などに大きな群生地になっています。



イワヒメワラビ

ダンドボロギク：北米原産の帰化植物で、花は目立たず、すぐにふわふわの毛がある種が飛びまわって拡散します。毒は無いけど草全体に独特の匂いがあるって、シカはなぜか食べません。



ダンドボロギク

レモンエゴマ：青紫蘇に似ています。レモンに似た芳香があり、ハーブに利用できますが、シカはこの匂いが嫌いなようで食べません。



レモンエゴマ

これらの草、シカも餌不足になると食べるのでしょうか？

【夏の圃場であぜ道講習会2回目】

先月に続いて、7月9日に第2回目のあぜ道講習会が開催され、11人の参加がありました。稲の生育は平年なみに戻り、そろそろ出穂の時期になり、水の管理や肥料、そしてカミの対策について説明がありました。今年も梅雨明けが早かったため、猛暑と水不足が心配です。



【夏のお片づけ①、粗大ゴミの日】

7月13日は、年間2回ある粗大ゴミの日で、不要な寝具や家具などが多く出されていました。昔は各家に客用の布団などが用意されていましたが、生活様式が変わって、必要としなくなりました。いらないものはさっさと断捨離して、家の中を風通しよくしましょう。



【夏のお片づけ②、空家解体】

長年、空家になっていた本谷の本田さんのお宅ですが、この冬に雪で屋根の一部が崩落しました。この度、解体することになり、7月6日より業者が作業に取りかかっています。瓦や土壁など、分別しながらの作業で3週間はかかるそうです。また少し、人の気配が消えてゆきます。



○令和8年 8月の行事

- 2日(日) 「久斗山 河川愛護」(6:30~8:00 久斗山区)
- 3日(月) 「たそがれコンサート」人権啓発運動(16:00~17:30 人権文化をすすめる町民運動推進実行委員会)
- 8日(土) 久斗山自然教室「川の生き物観察会」(9:00~12:00 久斗山地区公民館)
- 14日(金) お盆 初盆供養(13:00~ 久斗山区)
- 28日(金) 久斗山地区人権学習会(19:30~20:40 久斗山ふれあいセンター)



上山高原エコミュージアム
8月のプログラム

上山高原 星空キャンプ

令和8年 8月1日(土)~8月2日(日)

上山高原の夏——燃える夕日が水平線に沈むころ、
星空には無数の星が輝き始めます。
灯りといえば、彼方に見えるイカリの漁り火だけ。
やがて満天の星はまばゆいばかりの輝きを増します。
そんな真夏の夜の夢を、ぜひ上山高原でご体験ください。

8月1日(土)	8月2日(日)
上山高原ふるさと館集合 13:00	起床 5:00
上山高原車(各自で移動) 14:00	バードウォッチング 5:10
キャンプ啓蒙 14:30	朝食準備 8:00
自然観察 15:30	朝食 8:45
夕食(バーベキュー) 16:30	自然観察 9:30
夜の自然観察等 20:00	上山高原ふるさと館着 11:00
就寝 23:00	

★持ち物
・用具：懐中電灯、観察用具(持っているもの)
・寝具：寝袋(山歩きのできる履物)、飲み物
※夜は虫が飛びまわります。虫退治に合った服装をご持参ください。

★参加費
大人 4,000円 小人 2,000円
(バーベキュー等の食事、保険料、観望料を含みます)
※1日・2日の昼食は含まれておりません。

★参加対象 小学生以上(小学生は保護者同伴で参加ください)

★定員 先着10組

★その他 小雨決行

申込先・お問い合わせ先 上山高原エコミュージアム
特定非営利活動法人 上山高原エコミュージアム E-mail ueyama-eco@yumenet.tv
TEL 0796-99-4600 ホームページ https://www.ueyamakogen-eco.net/

【協賛：リフレッシュパークゆむら】館外の方に入館割引券をお渡しします！

四季の久斗山生物だより

ホオズキカメムシ (昆虫類)

夏野菜の茄子や唐辛子、ピーマンが実る時期になりましたが、これらナス科の植物を好んで集まる害虫です。伸びだした柔らかな茎や葉に口吻を突き刺して吸汁し、成長を阻害します。指でつまんで潰すと、他のカメムシ同様、悪臭を放ちます。春に成虫が植えた野菜苗に飛んできたら産卵するので、その頃に見つけたらすぐに駆除しましょう。

ホオズキカメムシ
ピーマンの蕾にストロー状の口吻を刺して汁を吸う

夏休みには採集して液浸標本にしたクモは、登校日などで学校に行った時、生物部の部屋で名前を調べました。当時、クモの名前を調べるには唯一、原色日本蜘蛛類大図鑑『一九六〇』という、三五種の素晴らしい原色図の載った図鑑がありました。著者は蜘蛛学会(東亜蜘蛛学会)の会長の八木沼健夫博士です。この図鑑によって、採集したコガネグモやアシナガグモの仲間などの名前が次々に判明しました。そして、久斗山の西ノ谷で採集したクモは、形態や色が図鑑の「ツトゲイセキグモ」の図にそっくりで、さらに頭胸部の背にある六本のトゲの特徴も同じでした。しかし、解説を読むと、これまでに採集された数は極めて少なく、とても珍しいクモであると書かれています。

そんな珍しいクモが久斗山におるんだろうか？」

ちよっと疑心暗鬼になりました。

それなら直接、図鑑の八木沼博士に聞いてみたらええ」

一緒に生物部に入部した同級生のTくんの勧めもあり、標本をスケッチした図と写真を添えて、八木沼博士に直接手紙を書きました。ただ、図鑑の末尾に博士の経歴が載っており、大阪にある追手門学院大学の教授であることが判り、大学の住所を調べてそちらに送ることにしました。

二学期も始まり、しばらくした頃です。放課後に高校の事務所から呼ばれ、行くと生物部宛の一通の封書を手渡されました。裏返すと、前筆で八木沼健夫と送り主の名前が書かれていました。八木沼博士からの、待望のお返事の手紙が届いたのです。(つづく)